

ヒアリングの実施状況

関係機関が協議する場の設置にあたって、関係者にヒアリングを行って課題の洗い出しを行っている。

・ ヒアリングの実施先

- － 1月25日 北海道大学
- － 2月10日 東北大学
- － 2月18日 京都大学桜島火山観測所
- － 3月21日 東京大学地震研究所
- － 4月13日 名古屋大学
- － 5月10日 神奈川県温泉地学研究所
- － 5月17日 気象研究所
- － 5月24日 気象庁地震火山部
- － 5月31日 産業技術総合研究所
- － 5月31日 国土地理院
- － 6月20日（予定） 山梨県富士山科学研究所
- － 6月21日（予定） 東京工業大学火山流体研究センター

データ流通推進の目的

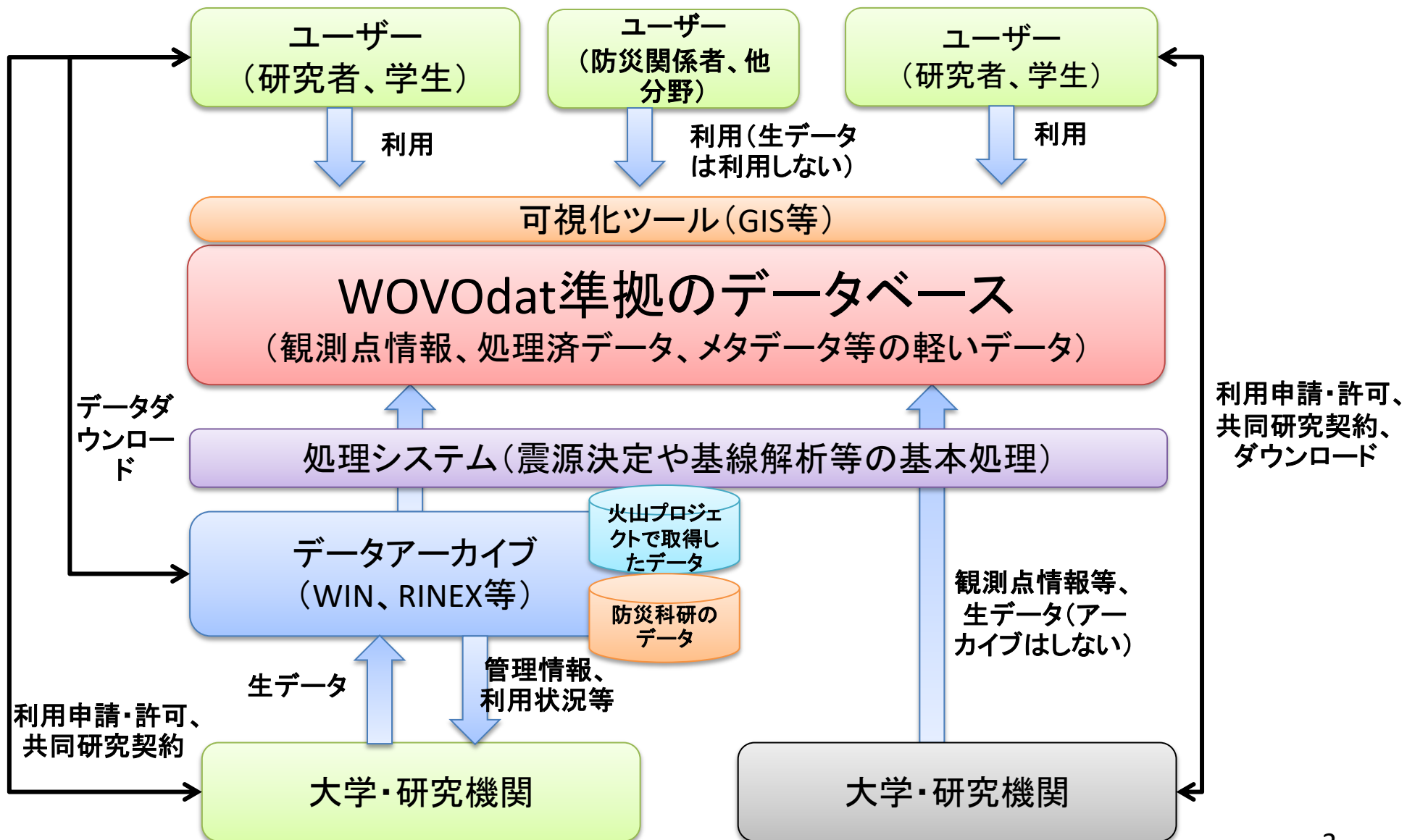
データ流通、データ収集自体が目的ではない。

1. 火山研究の活性化
2. 分野間・組織間の連携の強化
3. データ・研究成果の活用促進
4. 防災への貢献
5. 人材育成

課題Aの企画提案書の抜粋

本課題は、火山の調査観測データ及び処理結果等を迅速に共有し相互利用できる仕組みをつくることにより、データ・研究成果の活用や研究分野間・組織間の連携を促して火山研究をより活性化させ、本事業が目指す「観測・予測・対策」の一体的な火山研究を推進し、データ・研究成果の地方自治体や行政機関等による防災対策及び対応への活用を促進することによって、火山災害の軽減に資することを目的とする。

火山分野のデータ流通のイメージ（案）



ヒアリングでの主な意見

1. 懸念

1. 火山観測網には、色々な品質のデータがある。一律に扱うと問題があるかもしれない。
2. 生データの提供に関して問い合わせが来ることが懸念。
3. 各観測所でデータ処理してWOVOdatデータベースにいちいち保存するのは大変。
4. 火山が活発化した時、現地の観測所はマスコミや自治体対応で手一杯になり、データを見る暇もなくなる。その時に公開データを見た外野からいろんな情報がでてコメントを求められるが、対応ができなくなる。

2. 要望

1. 防災科研でデータをアーカイブしてほしい。
2. ありきたりの処理は防災科研でやってほしい。
3. 色々なデータが並べて見えるようにしてほしい。
4. 過去のデータの整理は、その人がいる間にやってしまったほうがいい。だが、大変。

3. 技術的課題

1. WINのローカルチャンネル。
2. サーバの利用に慣れていない大学もある。

4. 使いたいデータ

1. 画像・映像、コア・露頭、臨時観測、地下構造

5. データの利用ルールについて

1. 生データの利用には協定が必要。

WOVOdat データベース

- シンガポール南洋理工大学EOSで運用中。
 - ただし、データや機能が未だ充実しておらず、発展途上。
- 世界中の火山観測所のデータを共通フォーマットで保存して、利用しやすいようにしたデータベース。火山研究や災害対応において、よく似た火山の過去の事例と比較するために利用。
- 保存するデータは、主に処理済みのデータ。震源データや10分ごとの地震計振幅、GPS観測点の座標など。地震計の生データは重すぎるので扱わない。
- ユーザーがアップロードできて、そのデータはWEBページで見ることができる。
- サーバを構築するためのスクリプト・ツールはすべて公開されている。
 - フィリピンのPHIVOLCSでは、これを使ってデータベースを開発している。

WOVOdat データベースのデータポリシー

1. 観測データの所有権は、各観測所(データ主)にある。
2. データは主に処理済みのデータで、生データを利用したい場合は、データ主に直接連絡する。
3. 即公開を推奨されているが、2年間を猶予期間とし、それよりも新しいデータは非公開としてもよい。
4. WOVODatのデータを使って、火山活動の予測を行って公表してはならない。その特権は、データ主にある。
5. データは、火山活動の比較研究に使う場合は自由に利用可能。ただし、ある特定の火山のある活動についての研究を行う場合は、データ主に許可を得ること。
6. WOVODatのデータを引用するときは、WOVODatではなくデータ主を引用する。
7. データの再配布、改変の禁止

日本国内のデータ共有のルールを決めるための参考

当面のスケジュール（3年目の中頃まで）

	2017年 1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	2018年 1-3月	4-6月
次世代火山研究推進事業		総合協議会（6月）、運営委員会（5-6月）			総合協議会（1月）、運営委員会（1月）	総合協議会（6月）、運営委員会（5-6月）
地震・火山噴火予知研究協議会	次期計画検討WG（2-4月）、主に研究に関わる部分について議論	建議素案のとりまとめ（5月末）	次期観測研究計画検討委員会での検討開始			
課題A （関係機関との協議）	各研究所等でヒアリング、課題の洗い出し（2-4月）	ヒアリング結果報告（5-6月）、WG設置	数回WGにて技術的課題を議論	WGでの議論の中間とりまとめ報告	システムを利用しながら数回WGにて議論	WGでの議論のとりまとめ報告
課題A （システム開発）	主にハードウェア導入	主にソフトウェア開発			プロトタイプ完成	議論を踏まえて開発